

【団研ニュース 2026 年春号】

2026.3.1

編集発行 地学団体研究会 団研係 〒171-0022 東京都豊島区南池袋 4-16-6 古峯ビル 402
TEL:03-3983-3378 FAX:03-3983-7525 Email:chidanken@tokyo.email.ne.jp

＜関東山地研究グループ＞

近況 正月早々、埼玉支部の新年例会が、我がフィールド下仁田でおこなわれました。支部の団研持ち回り企画で、昨年は秩父盆地団研の案内で新第三系の基底礫岩の堆積環境について巡検しました。

2026 年は関東山地研究グループの担当で、約 1 億年前の跡倉層中の海底土石流の巡検をしました。秋の陣と冬の陣そして当日の現地討論で、ハイブリッド土砂重力流の堆積構造から土石流と混濁流の区別がわかり、3 ユニットの土石流の特徴がより明らかになりました。たいへん勉強になった新年例会でした。

* 「Lowe D R (1982) Journal of Sedimentary Petrology, 52, 1, March, 279-297」の和訳を関東山地研究グループの学習会でつくりました。必要な方はメールでご一報ください。

春の陣

期 日：3月26日（木）～28日（土）

宿 泊：かぶら宿 自炊 2000 円/1 泊 学割あり

集 合：下仁田町自然史館 3/26 木 12:00

内 容：跡倉累層中ノ萱礫岩部層，土石流堆積物周辺の地層の堆積構造調査。

連絡先：保科 裕 mikabogreen@jcom.home.ne.jp



中の萱礫岩巡検(AB ユニット境界)

＜岩見沢団体研究グループ＞

2026 年正月集会を、1 月 24 日に北海道教育大岩見沢校の能條会員の研究室で行いました。火山灰の検鏡作業もひと段落し、まとめのための作業が主な目的です。

今回は作業に先立って、AI を使って能條会員が作った「ヒグマとの共生を考えよう」というビデオをみんなで見ました。2025 年は日本中でクマの被害が相次ぎ、深刻な事態になりました。北海道でも道南や知床で人が亡くなるといった凄惨な事故が発生しています。このビデオは北海道教育大学岩見沢校の学生を対象に、

啓蒙用に作られたものです。なぜクマの事故が起こるのか、どうすれば防ぐことができるのかといったことがわかりやすく解説されています。クマの知識があまりない大学生や中高生にも見てもらおうと勉強になると思います。30 分程で見ることができるので、学校の授業で見たあとに議論や解説をすることもできます。興味のある方は、是非ご覧ください。二次元コードを読み込むと見ることができます。

連絡先：金川和人 kanagawa@pop12.odn.ne.jp



＜設楽団体研究グループ＞

10 月以降 5 回の調査を実施しました。私以外に皆勤のメンバーはいないものの、毎回 4 名ほどで歩いています。2010 年代に調査した流紋岩類を見直しています。かつての調査では産状から活動形態を想像するだけでしたが、ここしばらくの調査では、想像ではなく根拠をあげて活動形態の復元ができるようになってきたと感じています。近年は暖冬気味と言われながら、今季の冬は寒暖の差が大きく、それなりに寒い日があります。あまり雪が積もるとは言えない設楽地域でも、山上には積もっています。1 月 31 日の調査では冷蔵庫の中のような状態で一日中調査をしました。この地域の流紋岩に関するもやもやはだいぶ解消されました。毎回日帰り調査です。参加される方は連絡をお願いします。

連絡先：吉村 暁夫 pippi@ma.medias.ne.jp



1月31日の調査風景

<箱根発生期団体研究グループ>

メンバーの高齢化は情け容赦なく進んでいますが、相変わらず元気旺盛に活動しています。月1度の野外調査と室内団研をそれぞれ定期的に行っています。現在は調査地域（静岡県小山町）赤根沢に分布する溶岩と火砕岩・テフラからなる赤根ヶ沢層の調査結果を論文にまとめる作業中です。

今年度は赤根沢の論文化と並行して、箱根火山北麓に分布する滝沢層の火山砕屑岩・テフラの調査もおこなっています。珪藻化石も見られるのでなかなか面白い地層です。この滝沢層とその下位に分布する大沢層（大規模溶岩層や火山砕屑岩からなる）との関係も明らかにしたうえで論文化に着手する予定です。

今年の活動は1月に室内団研をおこなったきりです。2月は10日に野外調査をおこなう予定でしたが、寒波の影響で箱根地域にも相当な積雪があったため、中止となりました。調査したくてうずうずしていた団研メンバーにとっては残念な事態でした。今のところ2月17日の室内団研のみ予定されています。それ以降の日程については早急に決める予定です。春の草花が萌え出る箱根路の調査は1年で最も楽しい時期なので全員心が燃えたとっています。

連絡先：宮城晴耕 smiyagi@kir.biglobe.ne.jp



大沢層基底部付近に見られる第一溶岩の火山角礫岩層と下位の黒色火山砂層
(2012年7月29日 撮影者：宮城晴耕)

<本宿陥没研究会 2026年冬の陣の報告>

二次陥没盆地の地質図作りに向けて成果が得られました。

1月10日～12日、「かぶら宿」に宿泊し、本宿陥没研究会の冬の陣を行いました。

1月10日は6人参加で、ルートマップ集約図を前にこれまでの調査成果を共有し、今後の方針について以下の確認を行いました。

- ・「下仁田町の地質図作り」に協力し、下仁田町の新第三紀層の地質図作りを行う。
- ・二次陥没盆地東部の馬居沢川流域のこれまでの成果を論文にまとめる。

1月11日～12日は4人参加で、二次陥没盆地中西部の道平川の本流と東枝沢を調査しました。

以下の成果が得られました。

- ・道平川本流と東枝沢で、一次陥没盆地埋積層の馬居沢層（仮称）と二次陥没盆地埋積層の物語山層（仮称）の不整合の露頭を確認できました。
- ・物語山層の鍵層である阿唱念の滝溶結凝灰岩層（写真参照）の露頭を両溪流で確認。同層は北西方へ緩く傾くことが分かりました。
- ・岩質は、馬居沢層が安山岩質で物語山層はデイサイト質であることが分かりました。
- ・以上の結果から粗くはあるけれど阿唱念の滝沢から道平川までの地質図の作成は可能となりました。
- ・春の陣は、草が芽吹く前の3月に設定することが提案されました。

春の陣参加希望の方は、柿沼 (toshiyuki_kakinuma@cloud.com) まで連絡願います。

連絡先：新井節 (tk_s_ara0502@yahoo.co.jp)



阿唱念の滝溶結凝灰岩層の露頭
260111 道平川中流部

<福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ（略称：原発団研）>

2026年4月4日（土）に、「2026年春の原発団研」を対面式ではなくオンライン方式（Zoom）で開催する予定です。福島第一原発の汚染水・海洋放出問題の最新の状況を確認するとともに、2026年度の具体的な活動計画についても検討する予定です。

連絡先：柴崎直明 nshiba@sss.fukushima-u.ac.jp